

令和元年 9 月

平成 31 年 3 月卒業・修了予定者アンケート調査集計結果報告書

北 海 道 医 療 大 学
点 検 評 価 全 学 審 議 会

点検評価全学審議会は、内部質保証システムを策定し、多方面からの視点により点検評価を実施することとし、本学の教育理念・教育目標を達成するための大学づくりを目指している。

その一環として、卒業・修了予定の学生に対し、教育の質保証の観点から本学の教育により修得した知識や能力の達成度などについて評価・意見を聴取するため、アンケート調査を実施した。協力いただいた学生各位に対し厚くお礼を申し上げますと共に、その集計結果をホームページに公表することとした。

なお、この調査結果を今後の本学における大学及び大学院教育のあり方についての点検評価の基礎資料として活用することとする。

【平成 31 年 3 月卒業・修了予定者アンケート調査】

- ・ 集計結果報告書
- ・ アンケート調査票

平成 31 年 3 月卒業・修了予定者アンケート調査集計結果

目 的：卒業・修了予定者アンケート調査は、教育の質保証の視点から卒業生に対して各学部 of 学士課程における学習成果、大学院修了者に対して大学院課程における知識・能力の修得度合い等について調査し、教育目標・教育プログラムの教育効果の検証に資することを目的とする。

調査方法：平成 31 年 3 月卒業生・修了生を対象にカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび修得すべき知識・能力について、別紙アンケート調査を実施した。

調査期間：平成 31 年 2 月から 3 月の学位記授与式当日までの期間中に学部・研究科別に実施した。

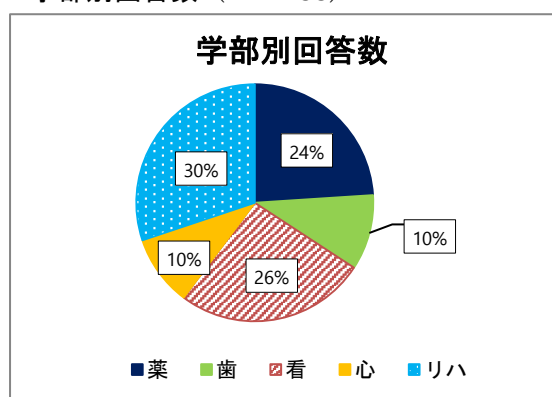
回 答 率：大学（学部・学科）の回答率は 82.7%で、大学院の回答率は 66.7%となっていた。

I. 大学・学部

■回答率

学部・学科		卒業生数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
薬学部	薬学科	138	117	84.8
歯学部	歯学科	51	50	98.0
看護福祉学部	看護学科	115	94	81.7
	臨床福祉学科	60	33	55.0
心理科学部	臨床心理学科	66	43	65.2
	言語聴覚療法学科	9	4	44.4
リハビリテーション科学部	理学療法学科	76	75	98.7
	作業療法学科	32	32	100.0
	言語聴覚療法学科	43	40	93.0
大学全体		590	488	82.7

■学部別回答数（n=488）



1. 調査概要

■学士課程教育において修得すべき知識・能力

「専門知識、技術」「コミュニケーション能力」「協調性」等、修得すべき知識・能力として特に重視している項目について、全ての学部で概ね成果があった。

○「修得すべき知識・能力」：「A 幅広い教養」「B 豊かな人間性」「C 専門知識、技術」「D 倫理観」「E 自己研鑽能力」「F 協調性」「G コミュニケーション能力」「H 自主性・創造性」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」「K 情報処理技能能力」

○選択肢「4. 身に付いた 3. 概ね身に付いた 2. あまり身に付かなかった 1. 身に付かなかった」

下記の通り、「4 身について」と「3 概ね身について」と回答した比率の合計で各項目を比較すると、「専門知識、技術」「倫理観」「協調性」など、各学部が修得すべき知識・能力として特に重視している項目について、非常に高い割合となっていた。ただし、11 項目のうち、「J 語学力」「I 地域的・国際的な視野」「K 情報処理技能能力」の3項目については、学部によって若干の差異はあるものの総じて比較的低い割合となっていた。

○学部別上位3項目（下表参照）

薬学部：「C 専門知識、技術」「E 自己研鑽能力」「D 倫理観」「F 協調性」（同率3位2項目）
 歯学部：「C 専門知識、技術」「D 倫理観」「A 幅広い教養」
 看護福祉学部：「D 倫理観」「C 専門知識、技術」（同率1位2項目）「A 幅広い教養」
 心理科学部：「C 専門知識、技術」「H 自主性・創造性」「E 自己研鑽能力」（同率2位2項目）
 リハビリテーション科学部：「C 専門知識、技術」「F 協調性」「A 幅広い教養」

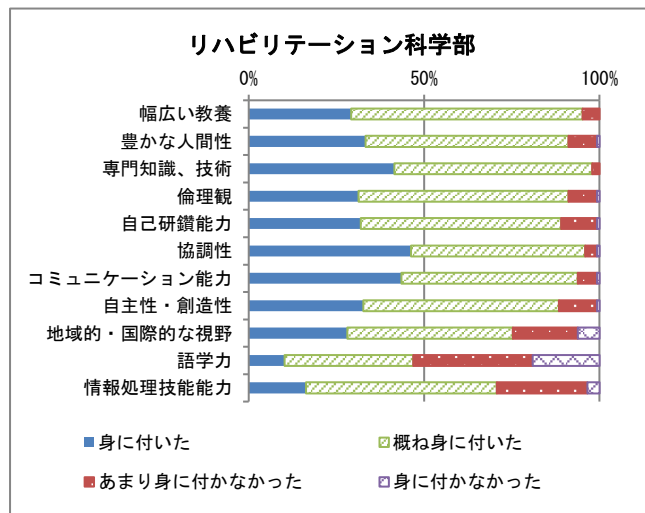
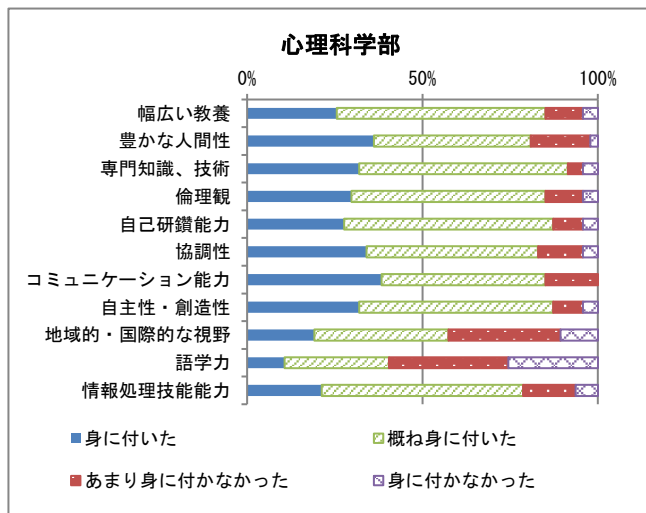
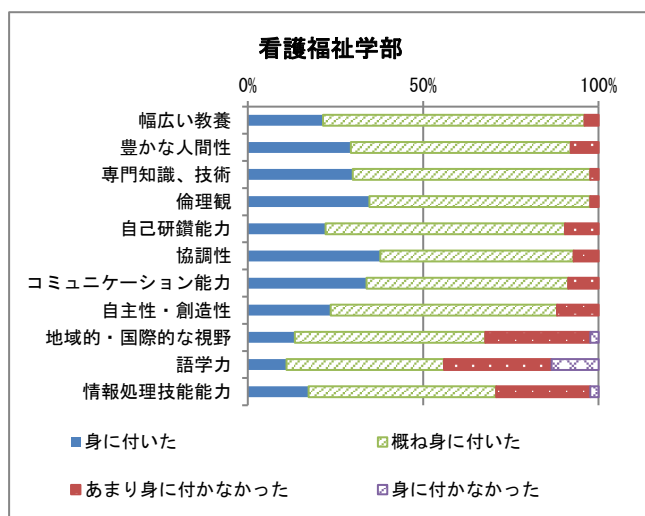
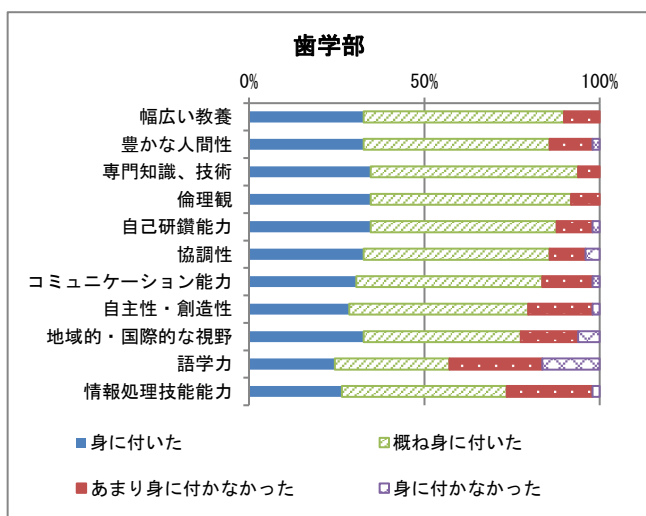
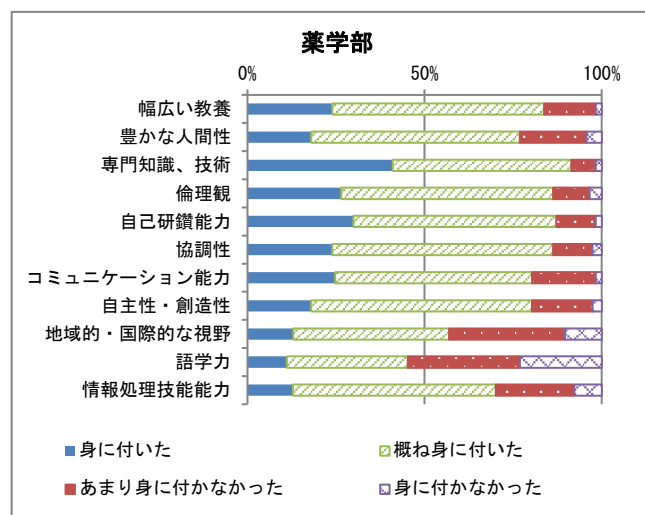
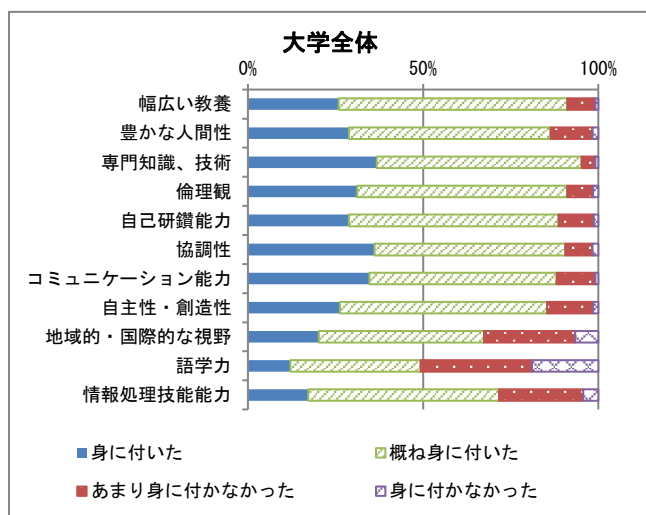
○学部別下位3項目（下表参照）

薬学部：「K 情報処理技能能力」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」
 歯学部：「I 地域的・国際的な視野」「K 情報処理技能能力」「J 語学力」
 看護福祉学部：「K 情報処理技能能力」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」
 心理科学部：「K 情報処理技能能力」「I 地域的・国際的な視野」「J 語学力」
 リハビリテーション科学部：「I 地域的・国際的な視野」「K 情報処理技能能力」「J 語学力」

○学部別・比率順一覧（単位：％）

薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部	
C 専門知識、技術	91	C 専門知識、技術	94	D 倫理観	98	C 専門知識、技術	91	C 専門知識、技術	98
E 自己研鑽能力	87	D 倫理観	92	C 専門知識、技術		H 自主性・創造性	87	F 協調性	96
D 倫理観	86	A 幅広い教養	90	A 幅広い教養	96	E 自己研鑽能力		A 幅広い教養	95
F 協調性		E 自己研鑽能力	88	F 協調性	93	G コミュニケーション能力	85	G コミュニケーション能力	94
A 幅広い教養	84	B 豊かな人間性	86	G コミュニケーション能力	91	D 倫理観		B 豊かな人間性	91
G コミュニケーション能力	80	F 協調性		B 豊かな人間性		A 幅広い教養		D 倫理観	
H 自主性・創造性		G コミュニケーション能力	84	E 自己研鑽能力	90	F 協調性	83	E 自己研鑽能力	89
B 豊かな人間性	77	H 自主性・創造性	80	H 自主性・創造性	88	B 豊かな人間性	81	H 自主性・創造性	88
K 情報処理技能能力	70	I 地域的・国際的視野	78	K 情報処理技能能力	71	K 情報処理技能能力	79	I 地域的・国際的視野	75
I 地域的・国際的視野	57	K 情報処理技能能力	73	I 地域的・国際的視野	68	I 地域的・国際的視野	57	K 情報処理技能能力	71
J 語学力	45	J 語学力	57	J 語学力	56	J 語学力	40	J 語学力	47

修得すべき知識・能力として各学部が掲げている「地域的・国際的な視野」については、薬・看護福祉・心理科学・リハビリテーション科学の各学部で「地域連携」を全学教育科目として配当しており、また、平成27年度から薬学部で新カリキュラムが施行され、国際的視野を持つ医療人育成のため「グローバルコミュニケーション」（全学年対象）を、地域社会に貢献できる医療人養成のための「医療福祉活動演習」（2年～6年対象）をそれぞれ開講している。次に「語学力」については、全学部を対象とする海外語学研修の実施、歯学部における「海外医療時事問題研究」や「海外臨床研修」（いずれも自由選択科目）の配当、海外の提携大学への学生派遣に取り組んでいる。



■授業科目の満足度

全学教育科目は、大学全体としては全項目で 85%超の高い割合となっており、また看護福祉学部では全ての項目で 90%を超えていた。

専門教育科目は、薬学部で昨年より低い割合となっていたものの、看護福祉学部およびリハビリテーション科学部ではすべての項目で 90%以上の高い割合となっていた。

1. 全学教育科目-「教養教育」「基礎教育」「医療基盤教育」の3つの分野で構成

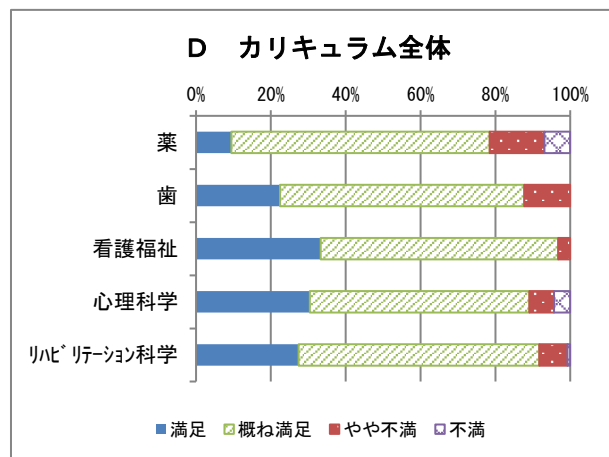
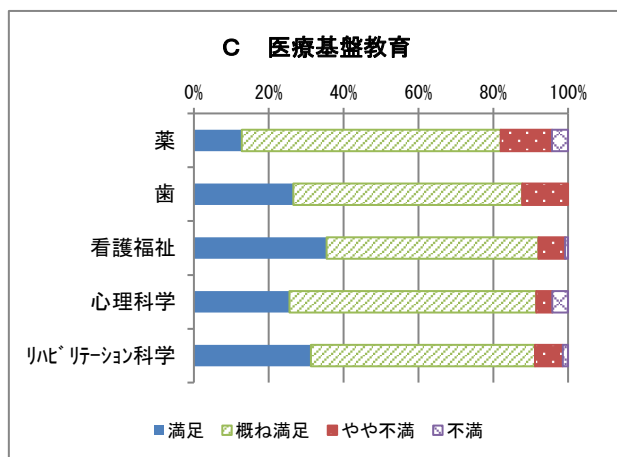
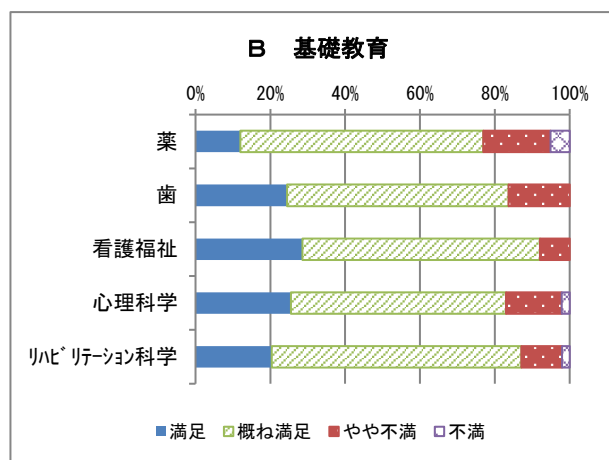
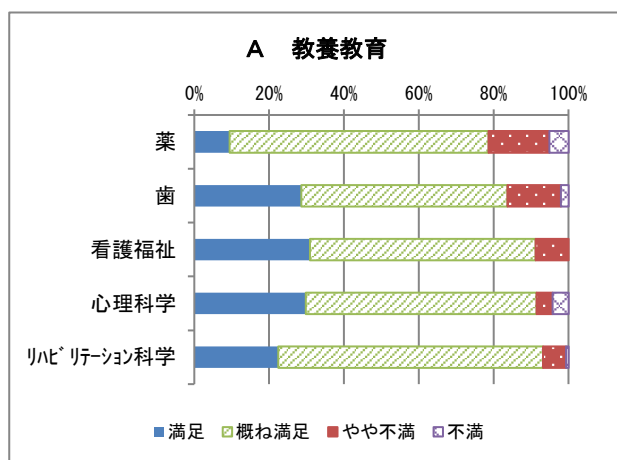
○項目「A 教養教育」「B 基礎教育」「C 医療基盤教育」「D カリキュラム全体」

○選択肢「4. 満足」「3. 概ね満足」「2. やや不満」「1. 不満」

「満足」「概ね満足」と回答した割合の合計（以下、「満足度」と表記）は、下表のとおりである。

（単位：％、カッコ内は前年）

学部等 \ 項目	A 教養教育	B 基礎教育	C 医療基盤教育	D カリキュラム全体
大学全体	88.1 (88.8)	85.2 (87.3)	88.9 (89.5)	89.2 (90.1)
薬学部	78.6 (82.5)	76.9 (81.6)	82.1 (82.5)	78.4 (81.4)
歯学部	83.7 (91.9)	83.7 (91.9)	87.8 (91.9)	87.8 (89.2)
看護福祉学部	91.3 (88.7)	92.1 (89.5)	92.1 (94.4)	96.8 (95.1)
心理科学部	91.5 (88.5)	83.0 (85.1)	91.5 (82.8)	89.1 (89.7)
リハビリテーション科学部	93.2 (95.2)	87.1 (91.2)	91.2 (96.2)	91.8 (94.2)



2. 専門教育科目

○項目 各学部専門教育科目の分類による。

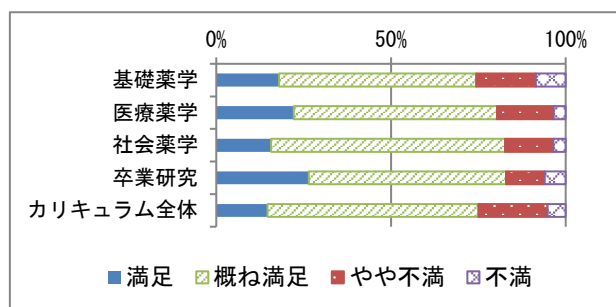
○選択肢「4. 満足」「3. 概ね満足」「2. やや不満」「1. 不満」

「4. 満足」「3. 概ね満足」と回答した割合（以下「満足度」と表記）は、下記の各表のとおりである。

●薬学部

全ての項目で昨年度を下回る結果となっていた。

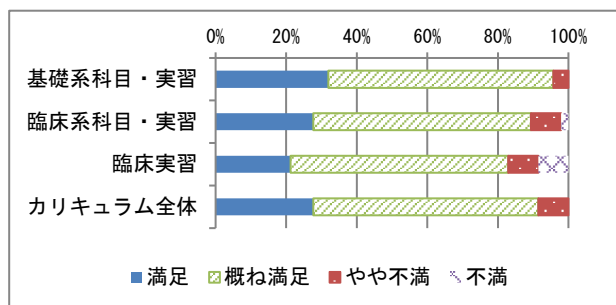
A 基礎薬学	B 医療薬学	C 社会薬学	D 卒業研究	E カリキュラム全体
74.4 (85.1)	80.3 (88.6)	82.6 (89.5)	82.9 (87.6)	75.0 (86.8)



●歯学部

臨床実習は昨年より約9ポイント低くなったものの、その他の項目は90%前後の高い割合となっていた。

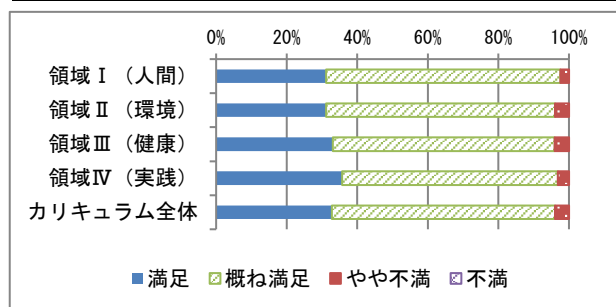
A 基礎系科目・実習	B 臨床系科目・実習	C 臨床実習	D カリキュラム全体
95.7 (97.3)	89.4 (91.9)	83.0 (91.9)	91.5 (89.2)



●看護福祉学部

各項目の満足度はいずれも95%を超えており、一昨年度、昨年度に引き続き非常に高い割合となっていた。

A 領域Ⅰ（人間）	B 領域Ⅱ（環境）	C 領域Ⅲ（健康）	D 領域Ⅳ（実践）	E カリキュラム全体
97.6 (96.0)	96.0 (96.8)	96.0 (97.6)	96.8 (96.0)	96.0 (99.2)

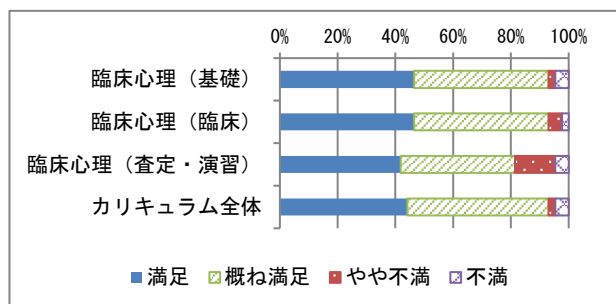


●心理科学部

ア) 臨床心理学科 (n=43)

「臨床心理 (査定・演習)」は昨年より約 10 ポイント低くなったものの、その他の項目は 90%を超える高い割合となっていた。

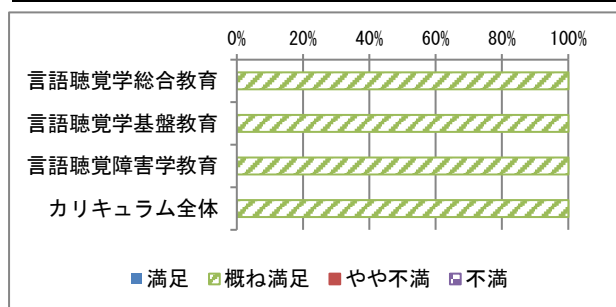
A 臨床心理 (基礎)	B 臨床心理 (臨床)	C 臨床心理 (査定・演習)	D カリキュラム全体
93.0 (98.0)	93.0 (95.9)	81.4 (91.8)	93.0 (95.9)



イ) 言語聴覚療法学科 (n=4)

全ての項目で 100%となっていた。

A 言語聴覚学総合教育	B 言語聴覚学基盤教育	C 言語聴覚障害学教育	D カリキュラム全体
100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (94.7)

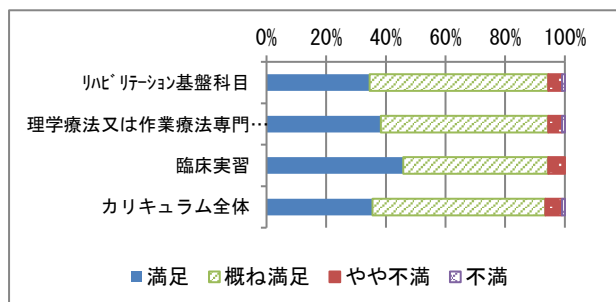


●リハビリテーション科学部

ア) 理学療法学科・作業療法学科 (n=107)

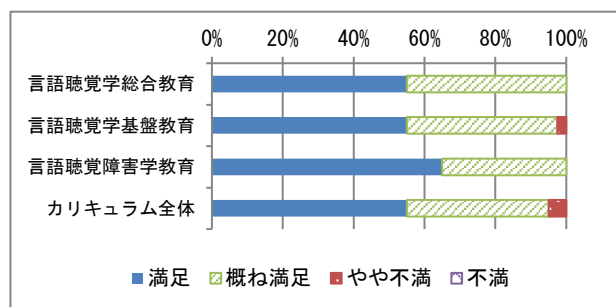
昨年同様、全ての項目で 90%以上の高い割合となっていた。

A リハビリテーション基盤	B 理学・作業療法専門	C 臨床実習	D カリキュラム全体
94.4 (96.2)	94.4 (96.2)	94.4 (92.3)	93.5 (93.3)



イ) 言語聴覚療学科 (n=40) ※今回新規調査
全ての項目で 95%以上の高い割合となっていた。

A 言語聴覚学総合教育	B 言語聴覚学基盤教育	C 言語聴覚障害学教育	D カリキュラム全体
100.0 (—)	97.5 (—)	100.0 (—)	95.0 (—)



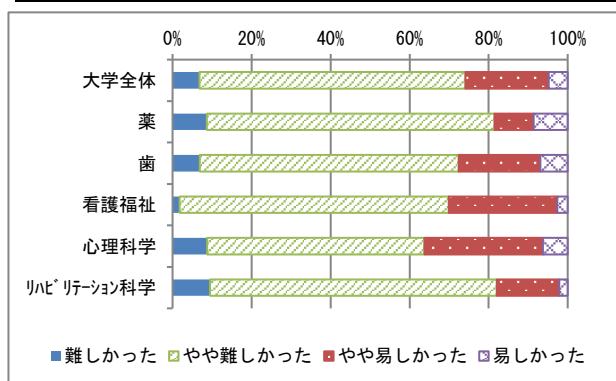
■教育プログラムの水準

○選択肢「4. 難しかった」「3. やや難しかった」「2. やや易しかった」「1. 易しかった」

「4. 難しかった」と「3. やや難しかった」と回答した割合は、下表のとおりである。

昨年度と比較すると、歯学部では 13 ポイントほど高くなっており、一方、心理科学部では 10 ポイントほど低い割合となっていた。

大学全体	薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部
75.6 (74.1)	85.9 (81.5)	85.0 (72.4)	61.5 (69.9)	54.3 (63.8)	85.4 (82.1)



■自由記述(件数)

	知識・技能の修得成果	授業・カリキュラムの評価	教育内容・大学への要望
薬学部	10	10	13
歯学部	5	4	6
看護福祉学部	11	4	17
心理科学部	3	1	4
リハビリテーション科学部	13	16	8

Ⅱ. 大学院・研究科

■ 回答率

大学院・研究科		修了生数(人)	回答者数(人)と回答率	
薬学研究科	薬学専攻(博士課程)	2	1	50.0%
歯学研究科	歯学専攻(博士課程)	7	5	71.4%
看護福祉学研究科	看護学専攻(修士課程)	12	8	66.7%
	看護学専攻(博士課程)	1	1	100.0%
	臨床福祉学専攻(修士課程)	6	3	50.0%
心理科学研究科	臨床心理学専攻(修士課程)	10	10	100.0%
	言語聴覚学専攻(修士課程)	1	0	0.0%
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻(修士課程)	5	1	20.0%
	リハビリテーション科学専攻(博士課程)	1	1	100.0%
計		45	30	66.7%

1. 大学院の調査概要

■ 修士課程と博士課程の別による修得すべき知識・能力

問2で在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたかを質問した。

○修得すべき知識・能力: 下記の表を参照

○選択肢: 「4. 身についた」、「3. 概ね身についた」、「2. あまり身につかなかった」、「1. 身につかなかった」

修士・博士、それぞれの課程で修得すべき知識・能力として各研究科で特に重視している項目について概ね成果があった。

修得すべき知識・能力について、修士課程では「C チーム医療への対応」(63.6%)、「F 国際的な視野」(45.5%)を除いた各項目で80%以上が「修得」「概ね修得」の結果となった。中でも「B 高度専門職能の基礎となる学識」(95.5%)、「A 問題発見能力および解決能力」(90.9%)は各専攻において教育目標やカリキュラム・ポリシーに掲げた内容が概ね達成されていることを示しており、また「G 高い倫理観」(90.9%)、「H 自己研鑽能力」(同)は同課程における高度専門教育が知識・技能だけでなく、望ましい態度の涵養といった点でも評価された結果と考えられる。

また、博士課程では「A 研究計画能力と研究実践能力」「F 責任性と高い倫理観」「I 自己研鑽能力」の各項目で100%となっており、高い評価を得ることができた。

■ 課程において身につけるべき知識・技能の修得度

(2-1) 修士課程修了者(n=22)

知識・能力 \ 評価	4	3	2	1	4と3の合計と回答率	
A 問題発見能力および解決能力	2	18	2	0	20	90.9%
B 高度専門職能の基礎となる学識	2	19	1	0	21	95.5%
C チーム医療への対応	1	13	8	0	14	63.6%
D 社会に貢献できる能力	2	16	4	0	18	81.8%
E コミュニケーション能力	3	17	2	0	20	90.9%
F 国際的な視野	2	8	9	3	10	45.5%
G 高い倫理観	4	16	1	1	20	90.9%
H 自己研鑽能力	7	13	2	0	20	90.9%

(2-2) 博士課程修了者(n=8)

知識・能力 \ 評価	4	3	2	1	4と3の合計と回答率	
A 研究計画能力と研究実践能力	3	5	0	0	8	100.0%
B 研究競争力と問題処理能力	3	4	1	0	7	87.5%
C 高度専門知識	4	3	1	0	7	87.5%
D コミュニケーション能力	7	0	1	0	7	87.5%
E 国際的な視野と行動力	4	3	0	1	7	87.5%
F 責任性と高い倫理観	7	1	0	0	8	100.0%
G 知的技術者(実践技術者)能力	3	4	1	0	7	87.5%
H 指導者の能力	2	4	1	1	6	75.0%
I 自己研鑽能力	6	2	0	0	8	100.0%
J 論文作成能力	4	3	1	0	7	87.5%

■教育プログラム全体の達成度

○選択肢:「4. 達成した」、「3. 概ね達成した」、「2. あまり達成しなかった」、「1. 達成しなかった」

教育プログラム全体の達成度については、修士課程では95.2%、博士課程では100%と、いずれも高い割合となっていた。

課程 \ 評価	4	3	2	1	4と3の合計と回答率	
修士課程	1	19	1	0	20	95.2%
博士課程	5	3	0	0	8	100.0%

■課程修了後の進路選択に関する所属研究科の教育プログラム全体の有用度

○選択肢:「4. 有用であった」、「3. 概ね有用であった」、「2. あまり有用でなかった」、「1. 有用でなかった」

課程修了後の進路選択に関する所属研究科の教育プログラム全体の有用度は、修士課程・博士課程のいずれにおいても100%の結果となった。

課程 \ 評価	4	3	2	1	4と3の合計と回答率	
修士課程	5	16	0	0	21	100.0%
博士課程	6	2	0	0	8	100.0%

■教育プログラムの水準

○選択肢:「4. 難しかった」、「3. やや難しかった」、「2. やや易しかった」、「1. 易しかった」

教育プログラムは、概ね学生のレベルに合致した水準であった。

課程 \ 評価	4	3	2	1	4と3の合計と回答率	
修士課程	2	15	4	0	17	81.0%
博士課程	3	5	0	0	8	100.0%

■自由記述件数

研究科 \ 項目	知識・技能の修得成果	授業・カリキュラムの評価	教育内容・大学への要望
薬学研究科	1	1	1
歯学研究科	0	0	0
看護福祉学研究科	2	6	5
心理科学研究科	0	1	0
リハビリテーション科学研究科	1	1	0

北海道医療大学の教育に関するアンケート

本調査は北海道医療大学の卒業予定者を対象とし、点検評価全学審議会が実施するアンケートで、北海道医療大学の学士課程教育の改善に役立てることを目的としています。ご協力くださいますようお願いいたします。回答結果は、大学において適切に管理し、個人が特定できる形での公表はいたしません。

【設問は問1～問8まであります】

問1 あなたが卒業する学部・学科について、該当する番号に○を付けてください。

- 1 薬学部 2 歯学部 3 看護福祉学部（看護学科） 4 看護福祉学部（臨床福祉学科）
 5 心理科学部（臨床心理学科） 6 心理科学部（言語聴覚療法学科）
 7 リハビリテーション科学部（理学療法学科） 8 リハビリテーション科学部（作業療法学科）
 9 リハビリテーション科学部（言語聴覚療法学科）

問2 在学中、「学士課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。以下のAからKの項目について、4段階で○を付けてください。

基準：4. 身についた 3. 概ね身についた 2. あまり身につかなかった 1. 身につかなかった

A 幅広い教養	4	3	2	1
B 豊かな人間性	4	3	2	1
C 専門知識、技術	4	3	2	1
D 倫理観	4	3	2	1
E 自己研鑽能力	4	3	2	1
F 協調性	4	3	2	1
G コミュニケーション能力	4	3	2	1
H 自主性・創造性	4	3	2	1
I 地域的・国際的な視野	4	3	2	1
J 語学力	4	3	2	1
K 情報処理技能能力	4	3	2	1

問3 上記以外に身についたと思う成果を記載してください。

※4 または1を選択の場合、可能であればその理由を記述してください。

問4 全学教育科目の授業内容の満足度について、A～Dの項目について4段階で○を付けてください。

基準：4. 満足 3. 概ね満足 2. やや不満 1. 不満

A 教養教育科目（基礎ゼミナール、人間と思想、人間と文化 等）	4	3	2	1
B 基礎教育科目（外国語、健康・運動科学、情報科学、自然科学 等）	4	3	2	1
C 医療基盤教育科目（個体差健康科学、地域連携、医療倫理 等）	4	3	2	1
D カリキュラム全体	4	3	2	1

問5 専門教育科目の授業内容の満足度について、下記の（1）から（5）のうち、ご自身の該当学部・学科を選択して4段階で○を付けてください。

基準：4. 満足 3. 概ね満足 2. やや不満 1. 不満

（1）薬学部

A 基礎薬学科目	4	3	2	1
B 医療薬学科目	4	3	2	1
C 社会薬学科目	4	3	2	1
D 卒業研究	4	3	2	1
E カリキュラム全体	4	3	2	1

●裏面へ続きます。

(2) 歯学部

A	基礎系科目・実習	4	3	2	1
B	臨床系科目・実習	4	3	2	1
C	臨床実習	4	3	2	1
D	カリキュラム全体	4	3	2	1

(3) 看護福祉学部（看護学科・臨床福祉学科）

A	領域Ⅰ（人間）科目	4	3	2	1
B	領域Ⅱ（環境）科目	4	3	2	1
C	領域Ⅲ（健康）科目	4	3	2	1
D	領域Ⅳ（実践）科目	4	3	2	1
E	カリキュラム全体	4	3	2	1

(4) 心理科学部

○臨床心理学科

A	臨床心理（基礎）科目	4	3	2	1
B	臨床心理（臨床）科目	4	3	2	1
C	臨床心理（査定・演習）科目	4	3	2	1
D	カリキュラム全体	4	3	2	1

○言語聴覚療法学科

A	言語聴覚学総合教育科目	4	3	2	1
B	言語聴覚学基盤教育科目	4	3	2	1
C	言語聴覚学障害学教育科目	4	3	2	1
D	カリキュラム全体	4	3	2	1

(5) リハビリテーション科学部

○理学療法学科・作業療法学科

A	リハビリテーション基盤科目	4	3	2	1
B	理学療法又は作業療法専門科目	4	3	2	1
C	臨床実習	4	3	2	1
D	カリキュラム全体	4	3	2	1

○言語聴覚療法学科

A	言語聴覚学総合教育科目	4	3	2	1
B	言語聴覚学基盤教育科目	4	3	2	1
C	言語聴覚障害学教育	4	3	2	1
D	カリキュラム全体	4	3	2	1

問6 上記問4・問5で良かったと思う点や不満に感じた点がありましたら記載してください。

※4または1を選択の場合、可能であればその理由を記述してください。

--

問7 あなたの履修した教育プログラムの水準について、全体的印象として該当する番号に○を付けてください。

4. 難しかった 3. やや難しかった 2. やや易しかった 1. 易しかった

問8 北海道医療大学で受けた教育のことや大学へ要望することなどありましたら自由に記載してください。

--

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

北海道医療大学大学院の教育に関するアンケート

本調査は、北海道医療大学大学院の修了予定者を対象として点検評価全学審議会が実施するアンケートで、大学院教育の改善に役立てることを目的としています。ご協力くださいますようお願いいたします。回答結果は、大学において適切に管理し、個人が特定できる形での公表はいたしません。

【設問は問1～問8まであります】

問1 あなたが修了する課程から、所属する研究科（専攻のある研究科は専攻別）に○を付けてください。

修士・博士前期課程・・・研究科を選択後、問2-1へ進んでください

- 1 薬学研究科 2 看護福祉学研究科**看護学**専攻 3 看護福祉学研究科**臨床福祉学**専攻
 4 心理科学研究科**臨床心理学**専攻 5 心理科学研究科**言語聴覚学**専攻
 6 リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻

博士・博士後期課程・・・研究科を選択後、問2-2へ進んでください

- 1 薬学研究科 2 歯学研究科 3 看護福祉学研究科**看護学**専攻 4 看護福祉学研究科**臨床福祉学**専攻
 5 心理科学研究科**臨床心理学**専攻 6 心理科学研究科**言語聴覚学**専攻
 7 リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻

問2 在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたと思いますか。以下のことについて、該当する課程にそれぞれ4段階で○を付けてください。

基準：4. 身についた 3. 概ね身に付いた 2. あまり身に付かなかった 1. 身に付かなかった

問2-1 **修士・博士前期課程を修了される方**にお尋ねします。

A 問題発見能力および解決能力	4	3	2	1
B 高度専門職能の基礎となる学識	4	3	2	1
C チーム医療への対応	4	3	2	1
D 社会に貢献できる能力	4	3	2	1
E コミュニケーション能力	4	3	2	1
F 国際的な視野	4	3	2	1
G 高い倫理観	4	3	2	1
H 自己研鑽能力	4	3	2	1

問2-2 **博士・博士後期課程を修了される方**にお尋ねします。

A 研究計画能力と研究実践能力	4	3	2	1
B 研究競争力と問題処理能力	4	3	2	1
C 高度専門知識	4	3	2	1
D コミュニケーション能力	4	3	2	1
E 国際的な視野と行動力	4	3	2	1
F 責任性と高い倫理観	4	3	2	1
G 知的技術者（実践技術者）能力	4	3	2	1
H 指導者的能力	4	3	2	1
I 自己研鑽能力	4	3	2	1
J 論文作成能力	4	3	2	1

●裏面へ続きます。

問3 上記問2以外に身に付いたと思う成果を記載してください。

問4 あなたの所属している研究科、専攻等の教育プログラム全体の達成度について、該当する番号に○を付けてください。

4. 達成した 3. 概ね達成した 2. あまり達成しなかった 1. 達成しなかった

問5 あなたの所属している研究科、専攻等の教育プログラム全体について、良かったと思う点や不満に感じた点がありましたら記載してください。

問6 あなたの修了後の進路選択に関し、所属している研究科、専攻等の教育プログラムの有用度について、該当する番号に○を付けてください。

4. 有用であった 3. 概ね有用であった 2. あまり有用でなかった 1. 有用でなかった

問7 あなたの履修した教育プログラムの水準について、全体的印象として該当する番号に○を付けてください。

4. 難しかった 3. やや難しかった 2. やや易しかった 1. 易しかった

問8 北海道医療大学で受けた教育のことや大学へ要望することなどありましたら自由に記載してください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。